

# Weekly report

MINKABU  
THE INFONOID

株式会社ミンカブソリューションサービス  
東京都港区東新橋1-9-1

## 今週の注目材料=米FRB関係者発言に注意

2024年10月21日

今週はそれほど目立った指標発表予定はなく、市場の注目は中銀関係者の発言などに  
なりそうです。米FRB関係者は26日土曜日から11月の米連邦公開市場委員会(FOMC)を前  
にしたブラックアウト期間に入るため、今週の発言が注目されます。

今のところ21日にカシュカリ・ミネアポリス連銀総裁、ローガン・ダラス連  
銀総裁、シュミッド・カンザスシティ連銀総裁、22日にはハーカー・フィラデルフィア  
連銀総裁、23日にパーキン・リッチモンド連銀総裁。24日にハマック・クリーブランド  
連銀総裁が発言予定となっています。

一時広がっていた11月の大幅利下げ期待は今月の米雇用統計の好結果もあって、ほぼ  
払しょくされています。市場では一部で据え置き期待も出てきている状況。14日にカ  
リフォルニア州スタンフォードのフーバー研究所で講演したウォラーFRB理事は、慎重  
なペースで利下げに対応するべきと発言しました。こうした慎重姿勢が今週発言する地  
区連銀総裁からも出てくるようだと、ドル買いが強まる可能性があります。ただ、ウォ  
ラー理事は今回、金融政策見通しを大きく変更させた雇用の強さについて、ハリケーン  
やボーイングのストなどの影響で10月は大きく押し下げられる可能性を指摘していま  
す。こうした状況は他の地区連銀総裁も意識しているとみられ、利下げに比較的前向き  
な姿勢を示してくる可能性もあります。

やや材料不足感がある中で、直近強まっているドル高の流れがどこまで継続するの  
かが注目される中、もう一つ材料となりそうなのが、11月5日と、間近に迫った米大統領  
選の情勢です。カマラ・ハリス民主党大統領候補が、ドナルド・トランプ共和党大統領  
候補を支持率で小幅上回る展開が続いていますが、ここに来てトランプ氏優勢の思惑が  
広がっています。勝敗のカギを握るといわれる7つの激戦州(スウィングステート)の世  
論調査でトランプ氏がリードするケースが目立っており、各種世論調査の平均を示す  
RCPという米政治サイトをみると、7州すべてでトランプ氏がリードとなっています。  
こうした状況を受けて米賭けサイトでもトランプ氏がリードを広げています。トランプ  
氏の公約は米国の物価高を招くとの見方が広がっており、トランプ氏勝利でドル高進行  
という見方が強いため、直近のドル高基調にも一役買っているとみられています。もっ  
とも両候補の差はまだ小さく、ここからの状況変化が十分にありえます。世論調査動向  
などをにらみながらの展開が見込まれます。

米国以外の材料としては、23日のカナダ銀行(中央銀行)金融政策会合の結果発表があ  
ります。利下げの実施が確実視されている状況です。ただ、利下げ幅については0.25%  
と0.50%で見方が分かれています。短期金利市場の織り込み、専門家の予想はともに拮  
抗しています。

カナダ中銀は新型コロナを受けて0.25%まで金利を引き下げた後、2022年3月と米国と  
ほぼ同時期から利上げを開始。昨年7月に5%まで金利を引き上げました。今年6月に  
0.25%の利下げを実施、7月、9月と0.25%ずつ引き下げしており、今回利下げすると4会合  
連続となります。

前回9月の会合においてマックレム総裁は、予想以上に弱い経済成長によってインフレ率が急速に低下するリスクがあるという懸念を示し、追加利下げの方針を示唆しています。15日に発表されたカナダの9月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.6%と、8月の+2.0%から鈍化。市場予想の+1.9%も下回りました。インフレターゲットである+2.0%を大きく下回る状況に、大幅利下げ期待が出てきています。もっともカナダの第2四半期GDPは前期比年率+2.1%と市場予想の+1.8%を上回る好結果。昨年第2、第3四半期のマイナス成長となり、テクニカルリセッション入りしましたが、直近3四半期連続で伸びが強まっています。先月27日に発表された7月の月次GDPは前月比+0.2%、前年比+1.5%と共に市場予想及び前回値を上回る伸びとなっており、カナダ経済の底堅さも意識されています。こうした好悪の判断が難しい状況が、見通しが分かれる背景にあるようです。

見通しが二分されているため、0.25%利下げでカナダ買い、0.50%利下げでのカナダ売りが見込まれます。

なお12月の会合でも追加利下げが見込まれているだけでなく、今回もしくは12月どちらかでの0.50%利下げという見通しが広がっています。こうした今後の姿勢も含め、結果に加えて声明や総裁会見なども要注目です。

#### 山岡和雅 | ミンカブソリューションサービシーズ 編集長

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシーズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシーズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシーズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。